

平成 28 年度 第 5 回 倫理委員会審議

| | | |
|-------|--|-------------|
| 申請者 | 感染管理専従副看護師長 | 岩谷 佳代子 |
| 受付番号 | 16-48 | |
| 課題名 | 看護部リスクマネジメント部会 針刺し事故グループによる「ペン型インスリンの針の取り扱い」についてのアンケート調査（再評価） | |
| 研究の概要 | 平成 27 年度、看護部におけるペン型インスリン使用時の針刺し事故報告件数が多く（6 件/13 件）、その背景について、看護師がペン型インスリン針を外す際の手技に個人差が大きい可能性が考えられた。そのため、5 月にペン型インスリン使用時の手技（針刺し事故対策）の実践状況と、針刺し事故へのイメージに関する意識調査を行ったところ、針ボックスの持参と活用が出来ていないことが明らかになった。そこで、針ボックス持参のためのカードの作成、針ボックスを用いた針除去に関する実技チェックに取り組んだ。5 月以降のインスリン関連の針刺し事故件数は 0 件である。取り組み後のスタッフのペン型インスリン実施時の手技における実践状況について再調査し、グループ活動の効果の有無について評価したい。 | |
| 判定 | 迅速審査承認 | 計画どおり承認とする。 |

| | | |
|-------|---|-------------|
| 申請者 | 救命救急センター長 | 藤原 紳祐 |
| 受付番号 | 16-49 | |
| 課題名 | 集中治療室（ICU）における抗菌薬使用と de-escalation の実態調査 Determinants of Antimicrobial use and de-escalation in critical care (DIANA study) | |
| 研究の概要 | 世界の ICU において de-escalation の方法は大きく異なっている。患者背景によってもその選択肢が異なり、適切な de-escalation 方法が選択された場合は患者の予後は改善するはずである。de-escalation を行うことで広域抗菌薬の処方に変化が生じるとともに、あらゆる抗菌薬の処方に影響を与えるとすれば、その過程を調べる必要がある。 | |
| 判定 | 迅速審査承認 | 計画どおり承認とする。 |

| | | |
|-------|--|-------------|
| 申請者 | 副看護師長 | 阿部 容子 |
| 受付番号 | 16-50 | |
| 課題名 | ギアチェンジ期にあるがん患者と家族の合意形成に向けた意思決定支援の実際 | |
| 研究の概要 | 本研究の目的は、ギアチェンジ期にあるがん患者と家族の意向が異なる状況で合意形成に向けた意思決定支援を行ううえで、看護師がどのように対象を理解し、どのような看護を行っているのかを明らかにし、看護を行ううえで感じる困難さの解決につながる教育的支援への示唆を得ることである。がん診療連携拠点病院に勤務するジェネラリストである看護師を対象に、研究者が作成したインタビューガイドをもとに、ギアチェンジ期にあるがん患者とその家族の合意形成に向けた関わりについて、1 事例を想起して語ってもらう半構成的面接を行い、インタビューにより得られたデータを質的帰納的に分析する。本研究により、ギアチェンジ期にあるがん患者を含めた家族という存在に対する看護師の対象理解やその対象理解に基づいた看護を可視化することが出来る。これは、患者を含めた家族の意思決定を意図的に行うことの必要性の根拠となる。 | |
| 判定 | 迅速審査承認 | 計画どおり承認とする。 |

| | | |
|-------|---|-------------|
| 申請者 | 麻酔科医師 | 杉山 馨祐 |
| 受付番号 | 16-51 | |
| 課題名 | アセトアミノフェン静注と硬膜外麻酔による術後鎮痛 | |
| 研究の概要 | 両群ともアセトアミノフェン静注を行った上に、硬膜外麻酔に麻薬を併用した群と硬膜外麻酔に麻薬を使用しない群を比較して、鎮痛の程度、副作用、患者満足度を調査する。 | |
| 判定 | 不承認 | 研究計画の不備のため。 |